

船井情報科学振興財団 留学報告書 6

神宮 亜良太

2024年11月

ドイツ Saarland University Computer Science PhD 三年目の神宮です。船井情報科学振興財団の六回目の報告書になります。

1 Google PhD Fellowship 採択

大変光栄なことに、この度 [Google PhD Fellowship](#) に採択されました。本報告書では Google Fellowship に関する情報と自身の応募過程をシェアしたいと思います。僕も過去に採択された先輩 PhD 達の情報を参考にさせていただいたので、この報告書が今後応募される方の参考になれば良いと思います。

1.1 そもそも PhD Fellowship とは？

一般的に PhD Fellowship とは、応募者の中から選ばれた PhD に対して金銭補助を行うプログラムのことです。IT 企業から公的機関まで様々な PhD Fellowship が存在し、その中で Google PhD Fellowship は最も有名なものの一つです。また PhD Fellowship は毎年必ず募集されるわけではなく、例えば Meta は 2023 年度で、Microsoft は 2022 年度で募集を一旦終了しています。

1.2 Google PhD Fellowship

Google PhD Fellowship は複数の CS 研究分野 (Algorithms and Theory, Machine Intelligence 等) に対して募集をかけており、世界中の応募から数名の PhD が各分野において選出されます。僕は "Human-Computer Interaction and Visualization" 分野での採択でした。ヨーロッパ在住の採択者に対しては二年分の Fund (給料、学費、健康保険、学会渡航費、研究費等) が与えられ、一人の Google Research Mentor がつきます。僕のメンターには [Dr. David Kim](#) という AR/VR/CV 分野で大変有名な Google の研究者がつかまりました。金銭的に言えば、もし Fellowship に採択されていなくても研究

室から同等の給料等が出たので、特にリッチになるわけではありません。しかし、Google PhD Fellowship は分野を超えて知られている上、Google とのコネクションもできるため、PhD にとって非常に価値の高いものだと思います。特に束縛も無く、例えば Google Fellowship にサポートされている間でも他の企業で研究インターンすることは問題ないそうです。

1.3 選出過程

Google PhD Fellowship に応募できるのは一つの大学から 2-3 人と決まっており、Google 内の選考以前にまず学内選考があります。学内選考のやり方は学校によって違い、僕の場合は 2024 年 4 月頭に自分が Fellowship 枠に選出されたことを突然伝えられました。5 月頭までに Google に書類提出する必要があったため、そこから研究提案書や推薦状のお願い等を急ピッチで進めました。いくつか応募要件があり、例えば Fellowship に選出された場合はサポート期間中は学校に所属する (卒業までに余裕がある PhD しか応募できない)、他の industry fellowship を受給している PhD は応募できない、等を満たす必要があります。

応募書類提出後、2024/8/30 に採択メールがありました。Google Europe の方からメールが来たこと、提出書類が地域ごとに違ったことを考えると、地域ごとに選出者が決められているのかもしれませんが。

1.4 提出書類内容

進行途中の研究内容が含まれるため、実際に提出した文章は公開できませんが、研究提案書の構成だけシェアしたいと思います。今年度の Google Fellowship の研究提案書は、引用抜きで最大 3 ページまでと決まっていました。自分は double-column・図付きで、Introduction(0.5p)、これまでの研究 (1.5p)、

Human-Computer Interaction and Visualization

Arata Jingu, Saarland University

Erzhen Hu, University of Virginia

Hyeon Jeon, Seoul National University

John D. Zamburescu-Pereira, University of California, Berkeley

Lindsay Popowski, Stanford University

Mina Huh, University of Texas at Austin

Saumya Pareek, The University of Melbourne

図1 Google PhD Fellowship, HCI 領域の受賞者

これから進める研究案 (0.75p)、Google との関連 (0.25p) という構成で書きました。PhD Fellowship への応募ということで、今後の Proposal というよりも、どういう PhD Dissertation を書くかという事を強調したかったので、これまでの PhD 研究についてもしっかり書きました。応募書類は Google 内の研究者やエンジニアが読んで評価を決めるそうですが、自分の分野に詳しい人だけが読むとは限らないため、なるべく導入をわかりやすく書きました。Fellowship に採択される確率は非常に低く、具体的な研究アイデアを Google の研究者にタダで見せたくなかったので、これからの研究案については最低限で済ませました。提案書のブラッシュアップに付き合ってくれた指導教官や同僚、推薦状を書いてくださった先生方に感謝します。

1.5 選出結果

採択メールから大分時間が経ち、2024/11/13 に選出結果が公式サイトで発表されました。自分の領域 (HCI) の受賞者は7名で、面白いことに、自分以外の人は全員 Human-AI Interaction/GenAI/LLM の研究を専門にしている PhD でした。GenAI が流行っていて研究人口がそもそも多いのか、Google が意図的に選んだのか、たまたまそうなったのかはよくわかりません。その中でも、触覚という Google からしたらビジネス化が難しい分野をやってきた自分が選出されるということは、Google が自分の研究提案に GenAI と同じくらいのポテンシャルを感じてくれたということですので、それを一つの自信にして研究に励もうと思います。



📅 November 15, 2024

Doctoral student from Saarbrücken wins prestigious Google fellowship

図2 所属大学がプレスを書いてくれました

1.6 メンターとのミーティング

11月下旬にメンターの David と zoom ミーティングをしました。自分の研究について改めて説明したのと、将来的なインターンや共同研究の可能性などについて話し合いました。一つ面白かったのは、Google は Android や Chrome といった数十億人が使用する覇権プラットフォームをデフォルトで持っていることから、“このプラットフォームを使ってどうやってスケールする体験をユーザに提供するか”という視点で研究を行っていることです。これはもしかしたら視聴覚メディアの研究者にとっては当然のことなのかもしれませんが、僕のような触覚デバイス系の研究者にとっては強い制約でありつつも新しい体験を生み出す視点になると思います。このミーティングがどういう方向に転ぶかわかりませんが、これからは楽しみです。

2 全体的な感想

Fellowship に応募するのは手間がかかりましたが、リターンはとても大きかったです。もし Fellowship に通らなかった場合でも、自分の研究を一つのビジョンとしてまとめるのは博論の良い訓練になりますし、応募をきっかけにリクレーターからインターンの誘いがあったというケースも聞いたことがあります。皆さんも機会があったらぜひ応募してみると良いと思います。